



40イニングに挑戦

6/27 三郷早起き野球連盟結成 40周年

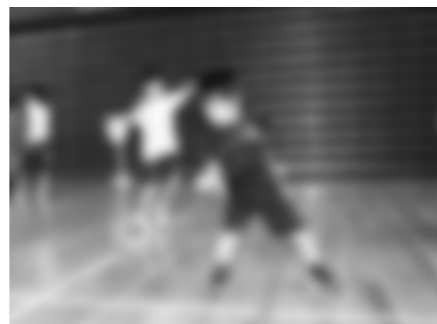
三郷早起き野球連盟結成 40周年を記念した「40 イニング野球大会」が6月27日、三郷文化公園グラウンドで開かれました。連盟に加盟している9チームがりんご軍団と稲穂軍団に分かれ、午前7時にプレイボール。9時間におよぶ熱戦の結果、30対15で稲穂軍団が勝利を収めました。会長の西澤康夫さん（三郷明盛）は、「最年少は19歳、最高齢は78歳。みんな野球が好きだから続けられた」と、これまでの歩みを振り返りました。



手塩に掛け 育てます

6/17 信州サーモン稚魚初出荷

今シーズン初めてとなる信州サーモンの稚魚の出荷が6月17日、明科七貴の県水産試験場押野試験地で行われました。この日は佐久市の養殖業者が試験地を訪れ、2万尾の稚魚をトラックに積み込みました。稚魚は2年から3年掛け育てられ、50gほどに成長すると市場に出荷されます。養殖業40年の菜花徳さん（佐久市）は、「信州サーモンは、肉厚な腹の身が特徴。まずは刺し身で食べてほしい」とおすすめの食べ方を教えてくださいました。



スポーツではぐくむ 市民の輪

6/27 第1回安曇野市民スポーツ祭

第1回安曇野市民スポーツ祭（市、市教育委員会、市体育協会主催）の総合開会式が6月27日、堀金総合体育館で開かれました。

このイベントは、スポーツ振興を図ると同時に、市民の連帯感をはぐくもうと、今回初めて開かれた催しです。会場となった総合体育館などでは、武道やダンスなどの披露、体力測定、ニュースポーツの紹介など、幅広い年代が参加できるスポーツが中心に行われ、約500人の参加者が汗を流しました。

反復横跳びなどの体力測定に挑戦した嶺山恵司さん（堀金烏川）は、「体力測定は30年ぶり。職場に健康診断はあるが体力測定はないので、自分を知る良い機会となった」と息を弾ませながら話してくれました。

市民スポーツ祭は今後、種目別の競技会に分かれ、年間を通じて各地で開かれる予定です。

初夏に映える ハナショウブ

6/20 信州安曇野あやめまつりメインイベント

初夏の風物詩となっている信州安曇野あやめまつり（実行委員会主催）が6月15日から30日まで、明科のあやめ公園と龍門湖公園で開かれました。

園内の70種5万株のハナショウブは、春先に寒い日が続いたため、例年より1週間ほど開花が遅れましたが、20日のメインイベントには間に合い、6割程度の花が咲き揃いました。

この日は、ニジマスのつかみどり、サークル団体の踊りや演奏の披露など、手作りのイベントが行われ、大勢の観光客などでにぎわいました。

1泊2日で安曇野観光に訪れた黒崎浩輝さん（川越市）は、「地元の方々のあたたかみを感じるイベント。心も体もいやされた気分です」と話してくれました。



あま〜いタマネギ。今年も好評

6/19 安曇野とよしな玉ねぎ祭り

本年度で13回目を迎える安曇野とよしな玉ねぎ祭り（実行委員会主催）が6月19日、豊科地域を中心とした11会場が始まりました。

参加者は、土から掘り起こした玉ねぎの葉を手ばさみで切り落とし、袋に詰め込む作業を体験しました。寺所公民館近くの20㎡ほどの農園では、午前8時の開場から1時間ほどで完売。昨年に続き参加した齋藤里美さん（豊科）は、「子どもも祖父母も豊科の甘いタマネギのファン。今年の味が楽しみ」と収穫を喜んでいました。



畑から「食べること」を考える

6/8 親子農業体験教室

市内の幼児がいる家庭を対象にした親子農業体験教室が6月8日、穂高で始まりました。穂高地区農村生活マイスターの皆さんと協力し、6月から11月の約半年を通じて、種まき、草取り、収穫、調理などを体験します。今年は、キュウリ、トマト、市特産の黒豆「信濃黒」などを育て、調理実習として七夕まんじゅうなどの郷土料理を作る予定です。市担当者は「郷土に自らの手で野菜を作り、調理を体験することで、『地産地消』と『食』への理解をはぐくむことができれば」と期待を寄せています。